

## いよいよ文化祭モード！感染症対策、食中毒対策万全に！！

サッカーワールドカップカタール大会が始まって、寝不足の人も多いのではないかな。スポーツだから勝つ時があれば、負けるときもある。日本代表がドイツに勝利した時の「ドーハの歓喜」、福岡県ほどの人口のコスタリカ戦の敗戦、そしてスペインに勝利した「ドーハの奇跡」。森保代表監督への評価の手のひら返しで手がちぎれてしまうのではないかな（笑）と SNS で評判になった。決勝点につながるアシストをあげた三苫選手の「最後の 1 ミリまで諦めずに」ということも話題になった。



私は、ドイツ戦の後の浅野選手のインタビューの言葉が印象に残っている。「一日も妥協したことがなかった」だからドイツに勝ったことは必然だったという自信がああ結果を導いたのだろう。しかし、ベスト 8 の壁は高かった。120 分で決められなかった。次はもう始まっている。

本校ではいよいよ文化祭！せっかくの開催を活かせるよう感染症対策、食中毒対策万全に！！初めてのアクリエ開催も楽しみだ。新しい企画は、大変なことも多いが、挑戦の姿勢がうれしい。生徒会をはじめ、関係者に感謝している。

## うちの女バスも熱い！西播 A リーグ昇格！！

格下のチームが格上のチームに勝利することを「下剋上」とか、「ジャイアントキリング」などと表現する。今回の W 杯でも FIFA 国際ランキング 24 位の日本が同 11 位のドイツ・7 位のスペインを破ったり、53 位のサウジアラビアがメッシのいる 3 位アルゼンチンを下したり、22 位のモロッコが 2 位のベルギーに勝利したりと、予選だけでも結構ある。日本国内でも天皇杯での J 2 甲府が J 1 のチームを次々と撃破し、決勝で J 1 広島を延長、PK の末勝利し、初優勝したことは記憶に新しい。

プロのサッカーだけではない。うちの西播 B リーグの女子バスケットボール部がやってくれた。11 月 23 日飾磨高校体育館がその舞台だった。相手は昨年 11 月 1 点差で敗れ、今年 4 月には 46 点差で大敗した西播 A リーグの琴丘。1Q 6：8、2Q 7：9 と 4 点ビハインドで迎えた 3Q、怒涛の攻めでなんと 10：0、最終的には 33：29 となり、日本代表のドイツ戦顔負けの逆転でのリベンジの「下剋上」を果たし、本校が西播 A リーグに昇格した。



試合後喜びを表す女子バスケ部員・OG・顧問

その結果、来年 2 月に行われる県大会に出場する。

## サッカーネタをもう一つ

神戸新聞 11 月 23 日付のコラム欄『正平調』の記事が目にとまった。「引退を決めた瞬間はいつか？」という内容で、元日本代表中村俊輔さんへのインタビューが記されていた。「中村さんは 2003 年ワールドカップ日韓大会で“当確”を予想されながら代表落ちした。…落選の理由を自問し、『人間性が足りなかった』と思い至る。『レギュラーを外れた時、ベンチでチームを鼓舞できなかった』以来自分と向き合う日々が始まる。欧州などでの活躍を経て 41 歳から格下の J 2 へ。けがでレギュラーを外れても腐らなかった。ベンチ外になった 10 代の選手との練習を『うれしい』と感じた時、気づいたようだ。『いま自分はチームを鼓舞できている。これでサッカーを辞められる』技術以上に大切なことを W 杯の落選は教えてくれた」そんな思いに至った中村俊輔さんは、今後きっといい指導者になるのだろう。楽しみだ。

チームは試合に出るレギュラー選手だけで成り立っているわけではない。指導者を中心として、バックアップの選手、スコアラー、トレーナー、その他たくさんの方が関わっている。一人ひとりが感謝の気持ちを持ち、その場その場でできることに全力を尽くす。中心選手がそれに気づき、人間性の成長の部分にも目を向けた時、その組織は活性化し、その本人も大きく成長する。人は人の中で生きるのだ。